

2026 年度 (令和 8 年度) 学校評価自己評価表

城西中学校区

校番 58

福山市立山手小学校

最終更新日

2026 年 (令和8年) 4月10日

I 福山市

めざす姿

すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現

II 中学校区

前年度学校運営協議会 (学校関係者評価)の主な内容	児童生徒の現状	育成する 資質・能力	コミュニケーション・表現力・忍耐力
○ こどもたちが意欲的に授業や行事に取り組んでいる様子が見られ、一定の成果が出ている ○ 地域とのかかわりを重視した学習活動に取り組み、情報発信を積極的に行っている ○ ボランティア・スタッフとしての参加があるなど、こどもたちの地域行事への参加が増え、今後にも期待したい ○ より多くのこどもたちが地元の学校で過ごせるように、魅力づくりを進めたい	○ こどもたちの「学び」に向かう姿勢は、主体的・協働的になりつつある ○ 学習活動を通して、地域のよさをとらえ、よりよいまちづくりについて考えるこどもたちが増えている ○ 「基礎学力と基本的な生活習慣の定着」をめざし、学校での「学び」と家庭学習とのつながりをつくる ○ こどもたちの気持ちに寄り添い、状況改善に向けて、伴奏的な取組を進める	めざすこども像 (義務教育修了時の姿)	地域に愛着と誇りをもち、心豊かにたくましく生きるこども
		中学校区として 統一した取組等	☐ 自己肯定感を高める(児童会・生徒会の合同活動・中学校オープンスクール) ☐ コミュニケーション力・表現力・忍耐力をつける(幼保小中連携教育・合同授業研究) ☐ 健康への意識を高め、体力向上を図る (体力向上の取組・体力テストの分析・生活改善の取組・校区保健だよりの発行) ☐ 学校・地域が一体となった取組の推進

III 自 校

学校教育目標
自ら学び 心豊かに たくましく生きる 児童の育成

現 状
<児童生徒> 根拠をもとに、自分の考えを表現しようとする児童や、物事に一生懸命取り組み協力し合う姿が見られるなど、前向きで素直な人間関係のよさが育っている。一方で、基礎的・基本的な学力の定着や家庭学習・繰り返し学習の習慣、場に応じた言葉遣いや挨拶、適切なコミュニケーション力に課題が見られる。また、生活習慣やメディア利用、安全意識の面でも継続した指導が必要である。 <授業> 「夢中になる授業の創造」をテーマに、導入・表現方法の工夫・授業展開の工夫を取り入れた授業改善を進めている。児童は学習に意欲的に取り組んでいるが、基礎的・基本的な学力の定着や、考えを適切に表現する力、記述式問題への対応に課題が見られる。学力調査では、全国平均を上回る結果も見られる一方で、学年や教科によっては平均を下回る状況もあり、ばらつきがある。現在、理科の研究を中心に授業改善を進め、学力向上に努めている。

育成する 資質・能力	表現力・コミュニケーション力・忍耐力
めざす こども像	全 学 年 自ら学び 心豊かに たくましく生きる 児童 ～自分のため、みんなのためにと行動し、自分の伸びを実感できる子～ 表現力 (低) 自分の思いや考えを表現することができる。 (中) 根拠を挙げながら自分の思いや考えを表現することができる。 (高) 多様な考えを理解し、多面的に表現することができる。 コミュニケーション力 (低) 相手の話をしっかり聞きながら伝え合うことができる。 (中) お互いの考えを比べ、よさを見つけながら伝え合うことができる。 (高) お互いの立場や意図を理解し、相手の考えを尊重しながら伝え合うことができる。 忍耐力 (低) 自分のやるべきことをあきらめず取り組むことができる。 (中) 目標をもち、最後までやり抜くことができる。 (高) 自分たちの生活をよりよくしようと主体的に責任を果たし、調整しながらやり抜くことができる。
研究	テーマ 山手発!夢中になる授業 ～育てよう!教科の目と芽～ 内容等 ① 導入の工夫(生活とのつながりのある、わくわく感のある、「?」が生まれる導入) ② 表現方法の工夫(振り返りや考察の書き方、ICTの活用) ③ 授業の進め方の工夫(学習サイクル、児童主体の計画、自己決定の場、体験的に学ぶ場の設定)
めざす授業の姿	・ 児童が「何のために学ぶのか」や「生活のどことつながっているのか」感じられる学習活動になっている ・ 児童が解決したくてたまらないわくわく感のある学習活動となっている ・ 児童が「体験的に学ぶ」ことができていく ・ 児童が学習内容や課題を「自己決定」している (ICTの活用) ・ 児童が自分の考えを整理して表現している

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立山手小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
I	基礎学力の定着・向上と学び続ける力の育成	★	新規	基礎学力の定着と向上を図り、学びの中で自己の伸びを実感できる児童の育成	興味・関心を引き出す導入を行い、日常生活とのつながりを意識させる授業を行う。 授業を中心に、スキルタイムや家庭学習と関連付けながら、繰り返し学習を行い、基礎学力の定着を図る。	□児童アンケート「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができている」の肯定的評価を90%以上にする。 □学期末テスト国・算（知技）において、70%未満の児童の割合を20%以下にする。 □学力調査正答率40%未満の児童の割合を全国平均以下にする。									
I	自己指導能力を基盤とした望ましい人間関係の形成と心身の健やかな成長の育成	★	新規	自他を大切にしながら周りとの関わり、自己の伸びを実感できる児童の育成	挨拶キャンペーンを行い、できている児童を表彰するとともに、自分の取組を振り返る機会を設けることで、学校や地域の人に自ら挨拶できる児童を増やす。 家族や友だち、先生、地域の方に「ありがとう」を伝えることのできる掲示物を作成し、自分の関わりを見つめ直す中で、感謝を自ら伝えられる児童を増やす。	□児童アンケート「自分からあいさつをしている」の肯定的評価を90%以上にする。 □児童アンケート「家族や友だち、先生、地域の方に自ら『ありがとう』と伝えている」の肯定的評価を90%以上にする。									

[illegible]

[総合評価の評価基準]

評価	評価基準
5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。